

2025 年 5 月 19 日  
東京科学大学

## 大学院修士課程入試 B 日程筆答試験における採点ミスについて

2024 年 8 月 16 日に実施しました東京科学大学 工学院 電気電子系 大学院修士課程入試 B 日程筆答試験において、採点ミスが判明いたしました。採点ミスの内容および対応については別紙のとおりです。

受験者の皆様、ならびに関係者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。原因を究明し、体制の強化とプロセスの見直しを行い、再発防止に努めます。

### 【お問い合わせ先】

(受験者からの問い合わせ先)

東京科学大学 教育推進部 入試課 大学院入試グループ

Email: [inquiries.grad.se@adm.isct.ac.jp](mailto:inquiries.grad.se@adm.isct.ac.jp)

TEL: 03-5734-3990

(報道取材申し込み先)

東京科学大学 総務企画部 広報課

申し込みフォーム: <https://forms.office.com/r/F3shqsN7zY>

Email: [media@adm.isct.ac.jp](mailto:media@adm.isct.ac.jp)

TEL: 03-5734-2975 FAX: 03-5734-3661



大学院修士課程入学試験における採点ミスについて  
(2025年4月及び2024年10月入学者対象-2024年8月実施B日程筆答試験)

2025年5月19日  
東京科学大学

表題に記載した大学院修士課程入学試験において採点ミスがあったことが判明しました。受験者及び関係者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。この採点ミスに関して、以下のように対応いたしましたので、ご報告いたします。今後、このようなことのないよう、再発の防止に取り組んで参ります。

1. ミスが生じた入学試験・学院及び系・試験科目

入学試験： 2025年4月入学及び2024年10月入学大学院修士課程入学試験  
B日程筆答試験(2024年8月16日実施)  
学院及び系： 工学院電気電子系  
試験科目等： 筆答専門試験科目「電気電子系・数学」

2. 採点ミスの内容

数学の大問2の小問2(c)について、正しい答えが「 $1/2$ 」であるにもかかわらず、「1」を正答として採点していました。

3. 発見の経緯

電気電子系の2025年9月入学 国際大学院プログラム(C)の面接試験(2025年4月実施)において、思考・導出過程等を説明させる目的で当問題を使用した際に、当該系の教員が気づきました。

4. 対応及び受験者への周知について

正しい採点に基づき再度順位を算定した結果、2025年4月入学者において、以下が判明し該当者には通知・対応しました。

- ・ 1名の受験者が本来合格しているべきであったため、追加合格。
- ・ 合格者は順位に基づき指導教員が決まりますが、該当する全ての合格者19名に連絡し、希望聴取の上、正しい順位に基づき指導教員を変更。

5. ミスが起った原因について

今回の採点ミスは、採点時に使用する模範解答書類の準備・検証の不備によるものです。16名を超える教員が4教科8問の作成および検証に携わりました。そのうち当該問題の作成には4名が携わり、検証には追加で別の4名が参加しましたが、模範解答書類の不備の発見ができませんでした。

6. 今後の対応策

前項の原因および関連要因についてさらに厳密な分析・確認の上、体制の強化と問題作成・検証プロセスの見直しを行い、再発防止に努めます。

問題分野
数学

- 2) 周期  $T$  をもつ周期関数  $f(t)$  を  $\omega_0 = \frac{2\pi}{T}$  として式 (2.2) のように表す。ただし、 $\omega_0$  は基本角周波数、 $a_n (n = 0, 1, 2, \dots)$ ,  $b_n (n = 1, 2, \dots)$  はフーリエ係数である。

$$f(t) = a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} \{a_n \cos(n\omega_0 t) + b_n \sin(n\omega_0 t)\} \quad (2.2)$$

図 2.1 に示す周期  $T = 2$  を持つ三角波形の 1 周期分を式 (2.3) で表す。

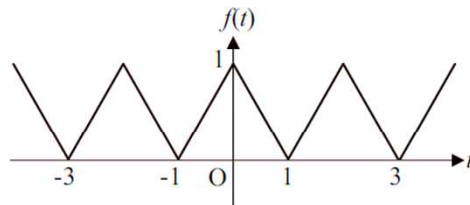


図 2.1

$$f\left(-\frac{2}{T} \leq t \leq \frac{2}{T}\right) = \begin{cases} -\frac{2}{T} \leq t \leq 0 \text{ のとき, } & 1+t \\ 0 < t \leq \frac{2}{T} \text{ のとき, } & 1-t \end{cases} \quad (2.3)$$

- (a) 式 (2.3) で示す関数  $f(t)$  は偶関数の奇関数のうち、どちらであることを記せ。
- (b) フーリエ係数  $b_n$  を求めよ。答えのみでよい。
- (c) フーリエ係数  $a_0$  を求めよ。答えのみでよい。
- (d) フーリエ係数  $a_n$  を求めよ。結果だけでなくその導出過程も示せ。また、 $n$  が奇数の場合、偶数の場合に分けて答えを示せ。